



交通バリアフリーニュース

消費者行政インタビュー

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

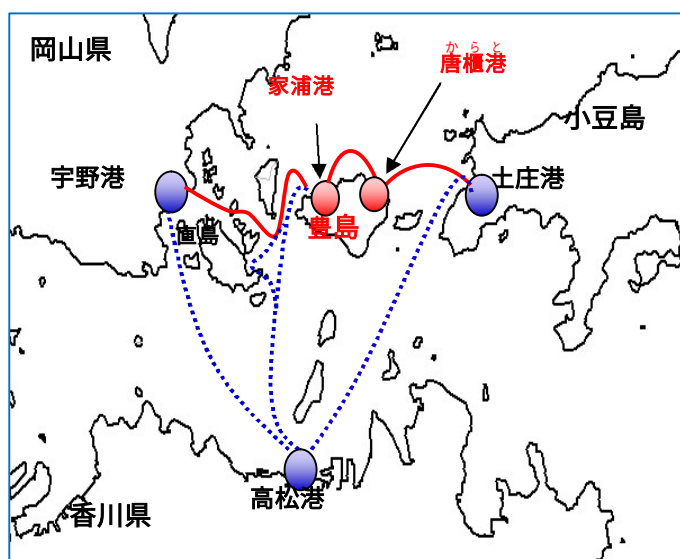
今回は、香川県の離島「豊島^{てしま}」と瀬戸内海で2番目に大きな島「小豆島^{しょうどしま}」、岡山県玉野市宇野とを結ぶ航路を2隻のバリアフリー対応船舶で運航され、離島住民の生活の足を支えておられる船舶運航事業者と、この航路の利用者にお話を伺いました。

豊島の概要

豊島は瀬戸内海の東部、小豆島の西に位置し、人口約1,000人弱、面積が約14.5km²の離島で、香川県小豆郡土庄町に属しています。

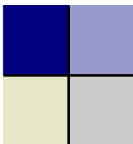
島は京都の桂離宮（石灯籠）に代表される「豊島石」が有名ですが、豊富な水と温暖な気候風土を生かして、早くから「稲作」が行われていたことや「みかん」栽培、近年では「いちご」のハウス栽培や「レモン」栽培でも話題を呼んでいます。また、豊島海域は瀬戸内海と大小さまざまな島の豊かな自然に育まれた新鮮な魚介類が捕れ、これら農・水産物などの宝庫でもあることから【食の島】としても知られています。

文字通り瀬戸内海の「豊かな島」ですが、戦後の混乱のなか乳幼児の命の糧とするための乳児院が開かれて以降、特別養護老人ホーム、知的障害者厚生施設、グループホームなど次々と福祉施設がつくられ、【福祉の島】とも呼ばれています。



また、最近では現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2010・2013」の舞台の島の一つとして、「豊島美術館」をはじめ数多くのアート作品が島内5つのエリアに展示され、【現代アートの島】として全国に発信しています。

豊島への交通手段は、岡山県からは宇野港からフェリーで40分（家浦港）、旅客船で25分（家浦港）です。香川県からは小豆島（土庄港）からフェリーで30分（唐櫃港）、旅客船で15分（唐櫃港）です。高松港からはフェリー（60分）か高速艇（30分）で小豆島（土庄港）へ、フェリー（60分）で宇野港まで行って本航路に乗り換える方法と、高速艇で35分（家浦港・直島本村港経由の場合は50分）の直行便などがあります。



船舶・航路の紹介、事業者インタビュー

豊島住民の生活航路となっている宇野～土庄航路は、国や地方自治体などの補助を受けて小豆島フェリー(株)が片道 26km をフェリー1隻と旅客船1隻で運航しています。航路の維持・活性化を図るため、地元住民を含めた協議会によりフェリーの小型化(旅客船化)が検討され、平成25年4月からフェリー1隻が旅客船(バリアフリー適合)に変更されました。船舶の小型化に伴い増便も行われ、フェリーは、豊島～宇野、豊島～土庄それぞれ1日4往復、旅客船は、豊島～宇野1日4往復、豊島～土庄1日5往復となっています。

◆「フェリーてしま」



用 途	自動車航送船	船 質	鋼	航行区域	平水区域
総トン数	365トン	長 さ	46.50m	幅	11.60m
深 さ	3.40m	航海速力	12.50ノット（時速約23Km）		
就 航 日	H18.5.17	旅客定員	350人		
車両航送能力（8トントラック換算）			8台		

◆「Mareてしま」

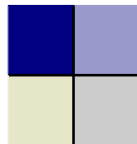


用 途	旅客船	船 質	軽合金	航行区域	限定沿海区域
総トン数	19トン	長 さ	22.10m	幅	4.00m
深 さ	1.74m	航海速力	20.00ノット（時速約37Km）		
就 航 日	H25.4.1	旅客定員	75人		

 高齢化が進んでいる離島住民の生活の足として、普段どのような事に注意、又は従業員への指導をされていますか？

高齢者の方が乗降される際には「足下にご注意ください」と声かけをするほか、荷物などを持たれている方にはお手伝いをさせて頂くという心構えなど、お客様の安全に留意することについて日頃から乗組員に指導しています。

また、フェリーは8年前の新造時にエレベーターや障がい者用トイレを設置、旅客船は昨年導入時に改造してバリアフリー対応の船にしており、車いすも常備するなど高齢者に優しい船になっています。フェリーの車両甲板には「シルバーパスルーム」も設置していますので、高齢者の方はどちらでも自由に選択できますし、お車でお越しの



障がい者の方には、事前にお申し出頂ければエレベータにより近い駐車スペースに優先して駐車出来るよう誘導させて頂いています。

 人口減少や燃料油価格の高騰など航路維持は大変厳しいと思いますが、何か工夫されているようなことがございましたらお聞かせください。

四国フェリーグループ全体としてのスケールメリットを生かせるように考えていますが、一般の観光客をいかに増やすことが出来るかも重要です。地元住民の方だけでは人口減少もありますし、コスト削減にも限界がありますので、売り上げを増加させることによって航路を維持していけたらと思っています。高松～土庄・土庄～豊島～宇野・宇野～高松のトライアングル航路のほか、姫路～福田・土庄～豊島～宇野などのアクセスをお客様によく知って頂くための周知活動や、豊島には美術館や魅力のある観光資源が沢山ありますので、そのことをよく知って頂くために関係先とも連携していきたいと考えています。

ただ、地元住民の方の生活航路であり、観光客が多くなって地元住民の方に不便をおかけすることも考えられます。課題はありますが、地元住民の方にも理解を頂けて観光客との共存が出来るような輸送体制も考えながら収支の改善を図っていかねばと思っています。

 平成25年4月からフェリー1隻を小型化（旅客船化）されましたが、利用者からの反応はどうか？

良い点と悪い点があります。

良い点は、快速艇ですのでフェリーと同じ料金で航行時間が短くて早く着くという点です。

一方デメリットということですが、風の強い日とか天候に対してフェリーよりも影響を受け安く、豊島沖などの波のきつい海域もありますので、安全を考えて欠航せざるを得ないこともあって、年間を通じてフェリーに比べて欠航率が高くなっています。また、定員が少ないことから、芸術祭などのイベントがあるとどうしても積み残しが出てしまうことがあり、船をもう少し大きくして定員も増やして欲しいといった要望があります（補助航路を運営していく上ではコスト面を考えると非常に厳しい要望だとは思っていますが…）。

 平成25年度に開催された「瀬戸内国際芸術祭」で観光客など利用者はどれくらい増加しましたか？

平成25年度の芸術祭の期間は3会期（春・夏・秋）に分かれておりますが、平均すると約6～7割増となっています。平成25年の春会期中の利用者（2万人）に対して平成24年の利用者（1万2千人）との差（約8千人）が概ねですが観光客ということかと思えます。平成25年の夏と秋会期中では、利用者（9万人）に対して平成24年の利用者（4万2千人）ということで約2倍に増加しており、芸術祭の集客というのはすごいと思いますが、通常期でも豊島には観光資源がありますし、小豆島に来たお客様をいかに豊島に呼び込むかだと思います。例えば、高松からだ小豆島（①エンジェルロード～②迷路のまち～③土渕海峡）で2時間、それから豊島に渡って美術館へ行って頂くようなことも知って頂ければ需要はあると思います。四国フェリーグループとして小豆島への観光をベースに豊島もセットにした周知活動も考えていきたいと思っています。





豊島の方はどのような目的で乗られている方が多いですか？

また、車いす利用者など障害を持たれた方の利用はどの程度ありますか？

豊島～土庄は通勤、通学が主で一日平均約50人、豊島～宇野は通院、買い物が主で一日平均約20人ご利用頂いています。

車いす利用者などのご利用は、週に2～3回程度はあります。豊島の方以外にも土庄や宇野から乗られる方もいらっしゃいます。

利用者からの声

航路の利用者からは、「豊島に嫁いでからずっと利用している。今は通勤（パート）で週5日利用しているが、昼の時間帯の便が少なくなって以前より不便になったと感じている。病院に通院する高齢者のためにも昼の便を増やして欲しいことと高齢者の方だけでもいいので運賃を安くして欲しい。」「買い物のために週1～2回利用している。今日は健康診断のために土庄の病院からの帰り。車で買い物に行くことが多いのでフェリーの便数が減って不便になったと感じている。快速艇は冬～春にかけて欠航することが多いし、芸術祭の時には島民が乗れないこともあった。」などフェリーが小型化されて不便になったという意見のほか、平成25年4月のダイヤ改正前のダイヤの方がよかったといった声が多く寄せられました。

一方で、「買い物のために週2～3回利用している。快速艇は時間短縮出来て便利。値段もフェリーと同じでクルージングしているようなので、天気の良い時はいつもデッキの椅子に座っている。」「観光で初めて来た。快速艇はスピード感があって楽しい。これからの島での観光もワクワクする。」などといった声も聞かれました。

インタビューを終えて

過疎化により人口減少が顕著な離島では、島民の足を守るための航路を維持するために常日頃からコスト削減などに努力されていると聞きます。瀬戸内の島々では、瀬戸内国際芸術祭が起爆剤となり、地域での色々な取り組みが活発になっており、人口が回復したと報じられた島もありますが、四国地方では離島のみならず人口減少が加速化しているのが現状です。

インタビューでの島民の方々の意見・要望は生活をするうえで当然のことだと思えましたが、安全運航と航路維持に奔走されている小豆島フェリー(株)のご苦勞にも頭の下がる思いです。厳しい中でも「何もしなければゼロ、島に来て頂けるために」といろんなアイデアを語られながら「夢のような話かもしれないが、究極は補助航路脱却」と



笑顔で話された堀川社長の瞳には島民の方々の笑顔や大勢の観光客で賑わう島の姿が見えているように思えました。また、島民の足である航路が元気になることで、島民の方々の要望にも応えられる。そうするためには、少しずつでも収支を改善していくことだと、そのための地道な努力も必要だともおっしゃっていました。

今回、フェリーと快速艇に乗船させて頂きましたが、風はなく波も穏やかで両船とも乗り心地よく快適に感じました。宇野発の快速艇が豊島（家浦港）に入港する際のデッキに乗られていた数名の方々の笑顔と笑い声と島の景色は本当に心和む映画のワンシーンのようでした。

インタビュー実施日：平成26年6月11日（水）・聞き手：秋山、北地

国土交通省バリアフリー化 推進功労者大臣表彰(第8回) 推薦案件を募集します！

公共交通機関、建築物、道路、駐車場、都市公園などの総合的で一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリー化に関する意識啓発にもより一層努めるため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人や団体を表彰いたします。

【募集受付期間】平成26年8月29日まで



○募集対象

国土交通分野に係る施設・車両等のバリアフリー化や、バリアフリー化の普及・促進活動等に積極的に取り組んでいる個人又は団体が対象となります。（詳細は次ページをご参照下さい）

○推薦案件の募集（案件の応募について）

募集対象に合致すると思われる案件がありましたら、次ページの国土交通省各地方支分部局等（以下「地方局等」）の連絡先まで幅広くご相談下さい。

○表彰案件の選考方法及び表彰時期

地方局等から大臣表彰事務局へ推薦を行い、選考委員会における選定を経て、最終的には国土交通大臣が決定し、平成27年1月に国土交通省本省において表彰を行う予定です。

お問い合わせ先：国土交通省四国運輸局交通環境部消費者行政課<TEL 087-825-1174>

【表彰の対象となりうる主な取組み事例と昨年度の受賞事例】

＜表彰対象となりうる主な取組み事例＞

- ・施設整備にあたって障害当事者や有識者等の意見を積極的に取入れ、設計や工事に反映しているもの
 - ・「バリアフリー整備ガイドライン」の項目以外に独創的・先駆的な取組みを行っているもの
 - ・「バリアフリー基本構想」に基づき施設や車両等の連続的なバリアフリー化整備を行っているもの
 - ・事業者と地方自治体や障害者団体等の連携による取組みを行っているもの
 - ・バリアフリー化推進のための人材育成などの取組みを行っているもの
 - ・障害者等の社会参加を積極的に支援するなどの取組みを行っているもの
- など、バリアフリー化推進のために取り組んでいる個人や団体の中から決定します。

＜昨年度の受賞事例＞

受 賞 者 名	受 賞 内 容
①一般社団法人全国子育てタクシー協会	「子育てタクシー」をブランドとして構築し、各地域の地方公共団体や子育て支援団体と連携しながら、全国的な普及・啓蒙活動
②札幌狸小路商店街振興組合・札幌市	各店舗の同意とりつけが必要な「商店街」という地域で、交通ルール自主制定による24時間歩行者専用化とバリアフリー化整備を一体的に実現
③八王子市	親子で安心して外出できる環境を整備するため、民間事業者の協力を得て、官民協働の子育てしやすいバリアフリーのまちづくりを実現
④阪急電鉄(株)	「駅係員よびだしインターホン」の全駅設置等、きめ細かい案内サービス提供を実現することで、コミュニケーションのバリアフリー化を実現
⑤(株)昭和観光社・バリアフリー旅行ネットワーク	障害者や要介護高齢者が参加する国内旅行分野において、バリアフリーツアーやヘルパー養成講習実習ツアーを積極的に実施

①小児旅客の安全確認



②バリアフリー化された商店街



③赤ちゃん・ふらっとの設置



④筆談対応の様子



⑤バリアフリー旅行の様子



※過去の受賞案件については、国土交通省ホームページ (<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html>) でご案内しています。

国土交通省各地方支分部局等連絡先

＜国土交通省本省＞ 総合政策局安心生活政策課 03(5253)8111 (代表)

＜地方整備局＞：建築物・道路・駐車場・都市公園等に係るもの

北海道開発局開発監理部開発調整課 011(709)2311 (大代表)
 東北地方整備局企画部企画課 022(225)2171 (代表)
 関東地方整備局企画部広域計画課 048(601)3151 (代表)
 北陸地方整備局企画部広域計画課 025(280)8880 (代表)
 中部地方整備局企画部企画課 052(953)8119 (代表)
 近畿地方整備局企画部企画課 06(6942)1141 (代表)
 中国地方整備局企画部企画課 082(221)9231 (代表)
 四国地方整備局企画部企画課 087(851)8061 (代表)
 九州地方整備局企画部企画課 092(471)6331 (代表)
 沖縄総合事務局開発建設部建設行政課 098(866)0031 (代表)

＜地方航空局＞：公共交通機関等のうち航空に係るもの

東京航空局総務部航空振興課 03(5275)9315
 大阪航空局総務部航空振興課 06(6949)6216

＜地方運輸局＞：公共交通機関等に係るもの〔航空関係を除く〕

北海道運輸局交通環境部消費者行政・情報課 011(290)2725
 東北運輸局交通環境部消費者行政・情報課 022(791)7513
 関東運輸局交通環境部消費者行政・情報課 045(211)7268
 北陸信越運輸局交通環境部消費者行政・情報課 025(285)9152
 中部運輸局交通環境部消費者行政・情報課 052(952)8047
 近畿運輸局交通環境部消費者行政・情報課 06(6949)6431
 神戸運輸監理部総務企画部企画課 078(321)3145
 中国運輸局交通環境部消費者行政・情報課 082(228)3499
 四国運輸局交通環境部消費者行政課 087(825)1174
 九州運輸局交通環境部消費者行政・情報課 092(472)2333
 沖縄総合事務局運輸部企画室 098(866)1812



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

交通消費者行政レポート(平成 25 年度報告)を発行

平成 25 年度の交通消費者行政をとりまとめた「交通消費者行政レポート」を 5 月に発行しました。

レポートは、行政相談、バリアフリーへの貢献による四国運輸局長表彰、消費者行政インタビューの各概要と、交通バリアフリーの推進として、四国における交通バリアフリー推進基本方針の概要、四国における交通バリアフリーの現状、平成 25 年度における交通バリアフリー推進の取り組みを紹介する内容となっています。

なお、本レポートは四国運輸局ホームページに掲載しています。

URL : <http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/soshiki/koutsuu/report.html>

交通消費者行政レポート

だれにもやさしい公共交通機関をめざして



平成 26 年 5 月
四国運輸局

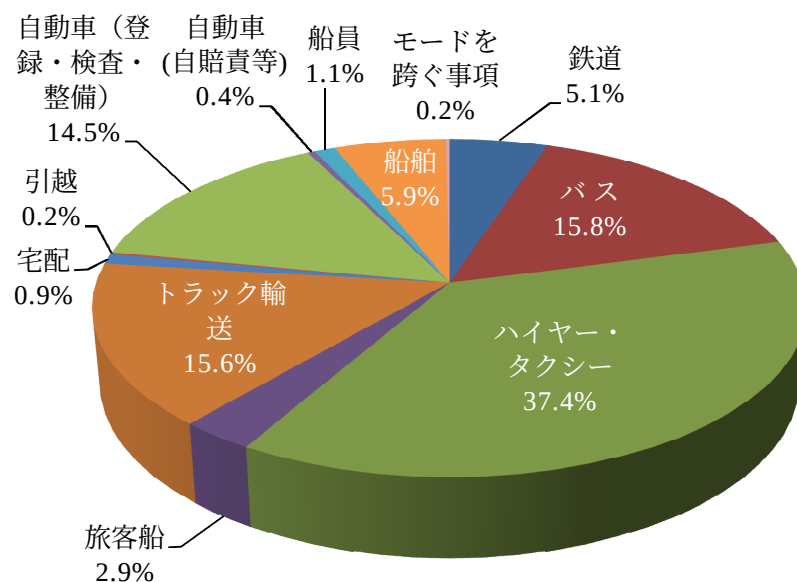
行政相談

四国運輸局では、交通に関する意見要望、問い合わせ、苦情等の行政相談に対応するため、運輸局及び運輸支局等に行政相談窓口を設置し、国民利益の保護と行政運営の改善を図っています。

《行政相談の傾向》

モード別の行政相談件数割合は、右図のとおりであり、相談内容は、意見・要望が 75% を占めています。

平成 25 年度モード別割合（意見・要望、問い合わせ）



◇タクシーに関する相談例

＜問い合わせの内容＞タクシーの運転手が、運転中に喫煙しているのを目撃した。タクシー運転手は、乗客がいなくても運転中は禁煙のはずである。事実確認して欲しい。

＜措置＞事業者より「事実確認したので当該運転手に始末書を書かせたこと、また、他の運転手にも再発防止のための注意喚起を周知徹底する予定である」旨の報告を得た。

◇バスに関する相談例

＜問い合わせの内容＞バス車両の急発進について、バスの運転手を注意したところ、運転手から暴言を吐かれた。

＜措置＞事実確認の上、事業者に対し交通事故防止の徹底と運転マナー向上等に努めるよう指導を行った。

四国における交通バリアフリーの現状

四国における旅客施設については、平成 23 年 3 月に改正された基本方針により、平成 32 年度までにバリアフリー化の実施を目標とされた、1 日当たりの平均的な利用者数が 3,000 人以上の旅客施設を含め、事業者、国及び地方自治体との連携等によりバリアフリー化が進んでいます。

また、車両等についても、乗合バス車両や旅客船を中心にバリアフリー化が進んでいます。

※平成 25 年度中にバリアフリー化が進んだ主な駅、停留場(新設を含む)

四国旅客鉄道(株)・・・宇多津駅（エレベータ、改札口、ブロック、発車標、トイレ）

高松琴平電気鉄道(株)・・・綾川駅（新設駅、多機能トイレ、スロープ等バリアフリー対応）

瓦町駅（ブロック）、琴平駅（トイレ）、春日川駅（スロープ）

八栗新道駅（スロープ）

伊予鉄道(株)・・・土橋駅（トイレ、スロープ）

旅客施設の状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

☆鉄軌道駅のバリアフリー化状況

駅総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ	転落防止設備
491	125	201	25	233

※ 利用者が 3,000 人以上の 23 駅を含む。



高松琴平電気鉄道(株)春日川駅スロープ

☆バスターミナルのバリアフリー化状況

ターミナル総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ
2	2	2	

※ 四国のバスターミナルは、1 日当たりの平均的な利用者数が 1,000 人未満の小規模な施設のみ。

☆旅客船ターミナルのバリアフリー化状況

ターミナル総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ
93	43	11	8

※ 1 日当たりの平均的な利用者数が 3,000 人以上の 1 ターミナルを含む。

車両等（平成 25 年 3 月 31 日現在）

☆鉄軌道車両のバリアフリー化状況

区分	総車両数	基準適合両数	基準適合率
鉄道車両	585	95	16.2%
軌道車両	109	11	10.1%
合計	694	106	15.3%

☆乗合バスのバリアフリー化状況

総車両数	区分	基準適合両数	基準適合率
1,503	低床バス※	435	28.9%
	ノンステップバス	330	22.0%

※ノンステップバスを含む。

☆旅客船のバリアフリー化状況

総隻数	基準適合隻数	基準適合率
107	29	27.1%

☆福祉タクシーの導入状況

基準適合両数	※バリアフリー新法の施行により、平成 19 年度から導入された基準適合車両数のみの集計である。
751	

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAX またはメールでお寄せください。



〒760-0064 香川県高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp



国土交通省

このニュースは、交通バリアフリー関係の話題を中心に、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。